平成30年7月豪雨災害 日本赤十字社の活動

monthly report

（2018.7.5 ～ 8.1）

たとえ大きな困難が行く手をはばんでも、
日本赤十字社はつづけます。

災害現場でのいち早い救護活動を。
人を救うことを。

救うことを、つづける。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

平成30年7月豪雨災害の概要

被害状況(8月1日現在)

・死者 220人
・行方不明者 9人
・負傷者 407人
・建物被害 47,255棟
・避難者 約23,000人（ピーク時）

平成30年７月豪雨災害の特徴

1 長時間にわたる広域の豪雨がもたらした甚大な被害
河川の氾濫による洪水や陸地内での増水による浸水をはじめ、地すべりや崖崩れなどの土砂災害が発生し、各地に甚大な被害をもたらしました。

2 在宅避難
自宅の一階部分は被害を受けたものの二階部分は無事であったため、在宅避難されている方が多くいらっしゃいました。

3 復旧を妨げる記録的な猛暑
過酷な猛暑により、熱中症で体調を崩される方が多く、避難生活や復旧作業に多くの困難が生じています。

数字で見る日本赤十字社の活動（8月1日現在）

派遣した救護班（活動中の3班含む）
※日赤DMAT合計23班を含む

87班

救護班の基本編成
（医師1人、看護師3人、事務2人　計6人）

毛布配布数

10,000枚

派遣した災害医療コーディネートチーム
（活動中の2班含む）

19班

安眠セット配布数

1,397セット

派遣したこころのケア班
（活動中の5班含む）

20班

緊急セット配布数

2,528セット

活動した赤十字ボランティア
（物資搬送、ボランティアセンター運営ほか）

208人

タオルケット配布数

275枚

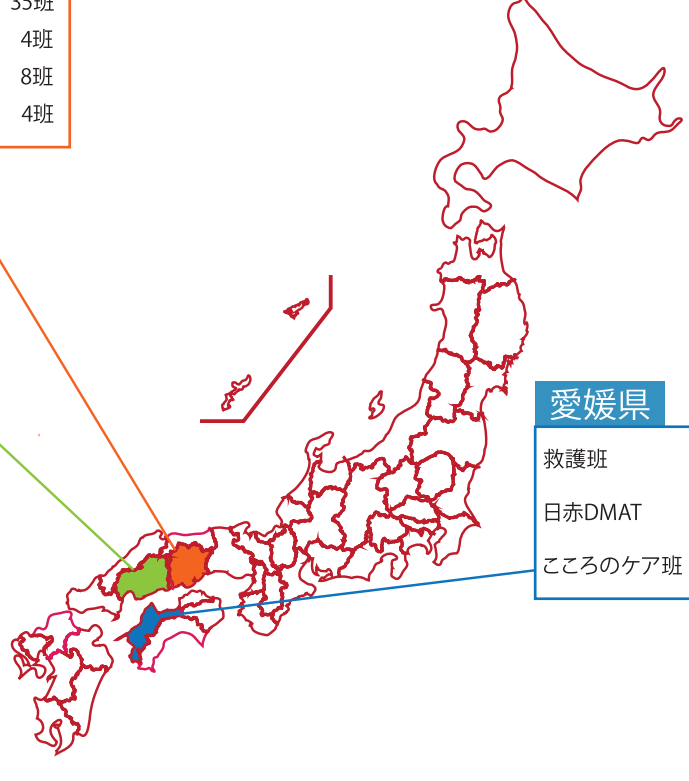
地域別救護班等活動数（8月1日現在）

岡山県

救護班	35班
日赤DMAT	4班
日赤災害医療コーディネートチーム	8班
こころのケア班	4班

広島県

救護班	28班
日赤DMAT	5班
日赤災害医療コーディネートチーム	11班
こころのケア班	12班



愛媛県

救護班	1班
日赤DMAT	6班
こころのケア班	4班

被災地での支援活動

日本赤十字社の使命は、“苦しんでいる人を助けたいという思いを結集し、いかなる状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守ること”です。
皆さまのご支援に支えられて、この思いを胸に活動を続けています。

医療救護活動・こころのケア

被害の大きい岡山県や広島県を中心に、全国の救護班などを派遣し、避難所での巡回診療や救護所などで活動にあたりました。また、長期化する避難生活によるストレスを軽減するため、こころのケア班が避難所などのニーズ調査を踏まえ、地域巡回や行政職員・避難所管理者などへの支援者支援を行いました。

PICK UP

日赤の災害医療コーディネートチームと地元の医師会や医療機関などが連携し、被災地における医療救護体制について話し合い、活動を行いました。

衛生・健康管理

家屋の浸水などにより、避難所での生活を余儀なくされる方が多いため、健康管理や衛生面での注意喚起を実施。エコノミークラス症候群を予防するための啓発・弾性ストッキングの配布や、熱中症対策の呼び掛けなどの支援を行いました。

PICK UP

長期化する避難所生活での負担を軽減するため、東日本大震災や熊本地震などで培った豊富な経験を有する医師を派遣し、助言などを行いました。

被災地での支援活動

ボランティアによる活動

赤十字防災ボランティアや赤十字奉仕団などが救護班のナビゲーションや救援物資の積み込み・搬送、義援金の受付などを行いました。また、熱中症予防や避難所を清潔に保つことによる感染症予防の呼びかけを行いました。

PICK UP

岡山県支部では、各市町の社会福祉協議会のボランティアセンターの運営に参画。赤十字ボランティアのノウハウや経験が即戦力に。

救援物資の配布

避難所のニーズ調査に基づき、日赤が備蓄する救援物資（毛布、安眠セット、緊急セットなど）をボランティアと共に被災された方へ迅速に配布。企業などから無償で提供頂いた経口補水液やゴム手袋なども配布しました。

PICK UP

断水が続く地域に給水・衛生チーム、WATSAN(Water and Sanitation)を派遣し、貯水タンクと洗濯機を設置。

被災者の声

避難所で救護班に足のけがを看てもらいました。対応が早くて、親切にしてもらいました。これからも社会に貢献する日本赤十字社であって欲しいです。

富岡栄作さん(54才)

糖尿病なのですが、避難所に救護班の方々がいてくれて安心して過ごせました。日本赤十字社はいろいろな支援をしていて頼もしいです。

鈴木登清子さん(77才)

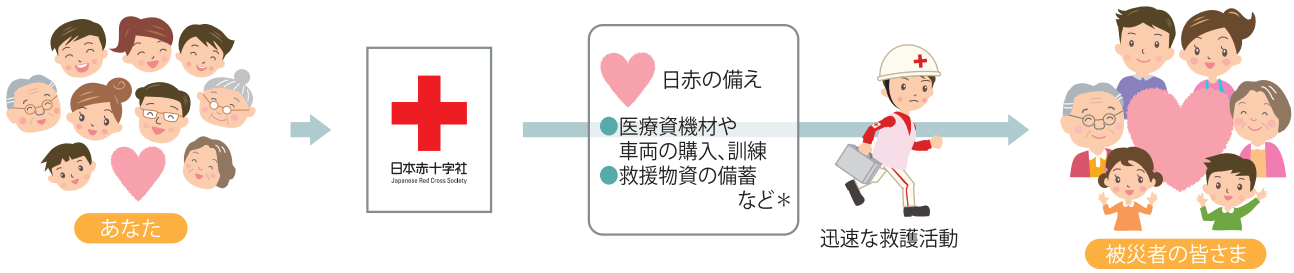
皆さまのご支援に感謝申し上げます

日本赤十字社は７月豪雨災害発生直後から救護員を派遣し医療救護活動やこころのケアなど、被災者に寄り添う活動を行っています。被災地で「ありがとう」の声を直接いただくこともあります。この言葉は、日赤の活動を支援くださる皆さまへの感謝の言葉です。今後も活動を通じて、皆さまの温かいお気持ちを被災地に届けてまいります。

被災者に届ける2つの支援　あなたの気持ちが、誰かを支える大きな支援につながります。

活動資金　日本赤十字社の活動を通じて被災者を支えます

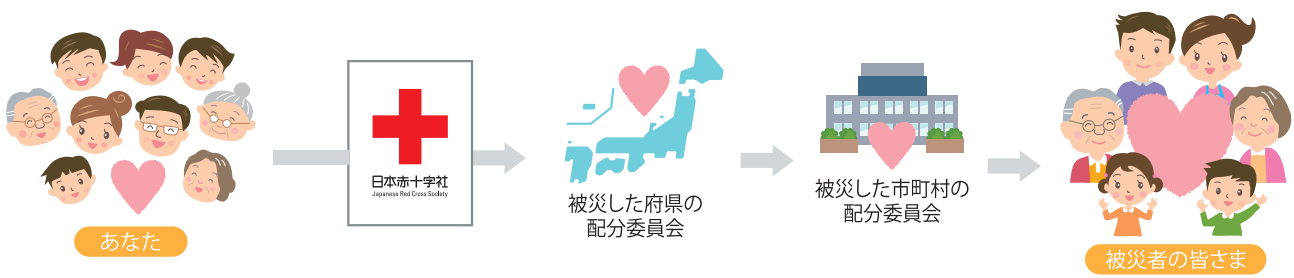
支援活動する日本赤十字社を応援



＊そのほか、炊き出しなどボランティア活動の支援、青少年への防災教育、救急法や幼児安全法の講習、途上国への開発支援などに使用されます

義援金　全額を被災された皆さまにお届けします

被災者への直接的な支援



「平成30年７月豪雨災害義援金」

送金状況　36億7,726万5,896円
（平成30年8月1日現在）

お寄せいただいた義援金は、被害状況に応じて按分され、
岡山県、岐阜県、京都府、愛媛県、広島県、高知県、福岡県、島根県、山口県、兵庫県
に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆さまにお届けします

活動資金　義援金へのご協力方法

活動資金 ｜ インターネット、口座振替、お近くの赤十字窓口など
義 援 金 ｜ 各種銀行口座、お近くの赤十字窓口など

日本赤十字社 寄付　検索

電話　03-3437-7081　パートナーシップ推進部